

令和元年度 地域懇談会 報告書

地域名	柏市南部地域ふるさと協議会
日 時	令和元年9月30日（日）午前10時00分～11時00分
場 所	南部クリーンセンター 中会議室
参加者	ふるさと協議会役員等 : 7名 地域づくり推進部長 : 1名 南部近隣センター所長 : 1名 社会福祉協議会職員 : 1名 地域支援課職員 : 5名 地域づくりコーディネーター : 2名 合計 : 17名
次 第	別紙のとおり
意見 交換	ふるさと協議会役員 ・南部は人手不足はないと感じている。規約でふるさと協議会の構成員が決まっている。町会長全員、民生委員、主任児童委員、サークルの代表者、小中学校代表者、PTAから決まった人数を出してもらっている。町会、自治会から25名以内の推薦枠もあり、現在22名が委員となっている。ふるさと協議会経験者、協議会推薦者の目星をつけ、20名の枠に現在18名にお願いしている。現在93名が活動している。 ・サポーター制度もあり、南部公園、近隣センターの花壇の整備。文化祭、行事等の交通整備をお願いしている。 ・全て規定化しているから、うまくいっている。
	ふるさと協議会役員 ・18町会自治会で役員選出に非常に苦労している町会等が複数ある。ジャンケンやくじ引きで決めてしまっている場合や、長く住んでいる方は最初に口を開いた方が決まる可能性があるため黙っている。 ・積極的に取り組んでいる町会もあるが、本当に困っている町会もある。 ・町会単位で出来ない地域の難しい問題はふるさと協議会で取り組むといい。 ・もっと学校関係者やPTAが誘い合って参加できるような楽しい催しをふるさと協議会で開催していくことも必要だと思う。 ・来年から南部4校でコミュニティースクールが始まるので、学校

やPTAが地域との関わりに積極的になれば、若い人達が地域や町会に参加しやすくなる。行政の方でも教育委員会との連携を図って欲しい。

ふるさと協議会役員

- ・町会長になり、ふるさと協議会に関わって7年になる。町会長がふるさと協議会の役員になるシステムはすごくいいと思う。
- ・町会には、行事等に一生懸命取り組む町会、まとまりのない町会で差がある。
- ・ふるさと協議会が新しい人、若い人を集めるには、やはり学校やPTAとの交流を図り組織化することのシステム作りが必要。

ふるさと協議会役員

- ・キーワード⑥「報酬を出す」について、私も町会長になりふるさと協議会との付き合いが始まったが、先輩には素晴らしい方が沢山いる。無償ボランティアとして同じ目的を持って、自分の利益のためでなく、地域のために働くというボランティア意識が知らず知らず先輩から植え付けられていく。だから報酬は必要なく、私だったら報酬が出るならやめてしまいたいと思う。南部のふるさと協議会では、報酬が必要だという声は聞いたことがない。
- ・ふるさと協議会を知ってもらうことは必要。ふるさと協議会を知らなくても行事に参加することで結び付いていく。
- ・キーワード③「役員の負担を軽くする」について、毎月1回定期的な役員会を開催し、町会長は全員出席対象としているが、欠席する場合は代理をお願いしているので、ほとんど欠席者はいない。ふるさと協議会と町会の連携がうまくいっている。
- ・6つのキーワードのほとんどが南部ふるさと協議会にあてはまらない。
- ・規約化して総会で決めて、規約通りにしているから40年継続できていると思う。

ふるさと協議会役員

- ・町会長の継続はほとんどない。
- ・ふるさと協議会（地域全体）で楽しい催し物を行い、来ていただけたらいいなと思う。
- ・ふるさと協議会の催し物が減ってきている。以前、運動会は小学校

の校庭で万国旗を飾ったり盛大に行われたが、現在は各町会対抗も高齢化やケガで選手を集めるのが困難で縮小された。

- ・以前は子供会もあったが、現在では子供は沢山いるけれど、子供会は少ない。
- ・町会の役員は、大変で忙しく面倒くさいからやりたくないという方が多く、ふるさと協議会の役員決めにも影響している。だが、町会の役員が年間を通して忙しいことはない。

ふるさと協議会役員

- ・町会長の1年任期が多い中、積極的に活発に活動している方にはふるさと協議会推薦として願います。
- ・南部地域で町会長の2年やって、様々な子供のイベントを開催したり、ネットを利用して高齢者の買い物のサポートをした貴重な若い方がいた。そういう方には、町会長の辞めてもふるさと協議会に入っていた。
- ・今後、小中学生の保護者の方が、少しずつサポーターや手伝いで南部地域に関わってくれたらいい形になると思う。

ふるさと協議会役員

- ・今年度半分以上の10町会の町会長が代わった。1年任期の町会長は秋頃になるとホッとしていることもあり、次年度の引継ぎがうまくいっていないことが多く、支えあいなどで顕著に出ている。
- ・ふるさと協議会の場合、1年目は見様見真似で役員として活動して、段々行事が分かってきた頃にふるさと協議会を辞めることになるが、もっと続けたという方もいる。例えば三俣町会の牛島さん。また、PTA会長からふるさと協議会の役員になってずっと続けている中田さん（企画副部長）、池嶋さん（広報部長）、入道さん（副会長）が活躍してくれている。

ふるさと協議会役員

- ・逆井小学校のPTA時代に入らされたが、続けられた理由は、楽しかったからと、関わる人が様々な職業や立場の方々だったからと、私の好きな飲み会があったこと。地域に交わって色々な方と単に昼間だけでなくお酒を飲みながら接することができたこと。その次に待ち受けていたのは町会の役員。学校、ふるさと協議会、町会、全てと接点をもって現場に対して感じるのは、古き良き時代を経験し

た年配の方々が活動していること。現在の子育て世代は、共働きで必死に子供を育てている。その方々に活動の参加をお願いするのは難しい。どうやって関わってもらおうか、最初は自分の子供のためにというところから入ってもらい、次は地域の子供達のために。と少しずつ視野を広げてもらう。そこから、自分の子供が地域の方々にお世話になっていることを知ってもらい、何ができるかを考えてもらう。

- ・ボランティアは時間の余裕が必要でお金がかかる。そんな中、担い手になってもらう動機づけは、自分の子供のために→子供達のために→ボランティアを楽しむという順序で様々なことに参加してもらう。
- ・30代～40代の子育てで苦労している方のために、ふるさと協議会の行事の中でも子供のために楽しいことや勉強なども取り入れて関わりを持っていくことも大切。

ふるさと協議会役員

- ・私がふるさと協議会の役員を続けているのは、大谷会長のためなら働けるという気持ちがあるからである。どこかでお世話になっているから恩返しをしたいという気持ちがあれば、忙しい子育て世代の方々も子育てが終わったら参加してくれるのではと思う。

ふるさと協議会役員

- ・キーワード③「役員の負担を軽くする」について、昔からの組織を変えていかなくてはいけないと思う。私がPTAの役員で体育部だった時から高齢化で運動会の種目などを変えていきたいとずっと思っていた。今やっと入道さんが体育部長になりレクリエーションに変えてくれた。時代に合わせて徐々に変えていくことは必須だと思う。

柏市職員

- ・田中ふるさと協議会は、田中中学校にて全町会参加で各町会同じTシャツの色で大運動会を行っている。内容は子供達がメインの小学校の運動会のようなで盛大。エリアごとに様々だが、田中ふるさと協議会のように根強い地域もあり、作りこみ方や仕方を変えていくのもいいと思う。

ふるさと協議会役員

- ・南部も3年前までは同じように盛大だったが、子供を集めるのが大変な町会が多くなり、去年からレクリエーションにした。

ふるさと協議会役員

- ・南部は築50年～40年の一軒家が多い、高齢化で孫の世代になり子供会もなくなってきたので、各町会お揃いのゼッケンやTシャツなどを強制ではなくして自由にした。

ふるさと協議会役員

- ・悩み事として、現在、南部近隣センターリノベーション後に南部公園に置いてある倉庫2つ分のふるさと協議会の荷物を戻せるか。イスやテーブルを町会から借りないといけないかも知れない。今まで通りに行事をやっていけるかが心配。

柏市職員

- ・南部ふるさと協議会の荷物は2階の倉庫と1階の外部倉庫を予定している。物置は工事期間のみなので、今後どうするかは話し合っていきたい。
- ・お祭りに関して、松葉ふるさと協議会は3年前からイベント会社にやぐらなどを発注している。商店街などがあるので協賛金や寄付金などを資金源としている。

ふるさと協議会役員

- ・近隣センターが新しくなったら、他の地域の行事のやり方を参考にして、古いものにこだわらず、これを機会にいい形に変えていくきっかけになればよいと思う。

柏市職員

- ・皆さんが大切にされている太鼓の場所も確保できるようにしていきたい。

ふるさと協議会役員

- ・今まで防災は震災について考えてきたが、近年では雨や風などの被害も大きく、今まで想像できなかった災害が起きる可能性がある。地域や行政も対策を考えていく必要がある。

・実際に災害が起きたら、行政は行政の仕事がある。地域は自分達で助け合うしかない。そのためにも地域のコミュニティについてふるさと協議会も町会もみんな考えていく時代になった。

ふるさと協議会役員

・野沢町会は、行事の時は、全て防災訓練の一環であると位置づけている。訓練になるので、足や腰の痛い人こそ参加してもらっている。年2回のクリーンディに参加できない人が1,000円払うことを無くし、防災訓練なのでどんな方にも参加をお願いしている。防災というのは理由をつけて出てきてもらえばいい。

柏市職員

・その発想は良いと思う。
・市役所も被災するのでふるさと協議会の方々の協力が必要。
・市役所の職員は全員が柏市内在住ではないので、地域の方の協力が無いと乗り切れないと思っている。

ふるさと協議会役員

・柏市に何かあった時に、他の市町村などに協力してもらえるのか。

ふるさと協議会役員

・小泉総理大臣の時に千葉県や東京都や近隣の県で協定を結んでいるので、何かあれば協力してもらえる。
・今回も柏市は九十九里町から要請があり何回も救援に行っている。

ふるさと協議会役員

・40年前から小中学校、ふるさと協議会、老人会などで色々な活動をしているが、この地域は住みやすい所だと思っている。
・昔は子供がたくさんいて、子供会を2つに分けないと行事ができないくらいだった。今はみんな外に出てしまい、子供が減り高齢者が増えるというように状況が変わってきている。
・活動に関わったきっかけは、日暮さんの奥様や馬場さんの奥様の繋がりだ、保健推進委員を10年間やって、関わる方々が人柄がよくて思いやりのある人ばかりなので、何か応援したいという気持ちから今も活動を続けている。
・高齢者が多くなっているから、今後高齢者が楽しむことも考

	<p>えて欲しい。</p> <p>ふるさと協議会役員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふるさと協議会に入って10年になるが、ボランティアなので許されることが沢山あり、みなさんが助けてくれるから負担なく続けられる。 ・いい方向に改善していこうという気持ちで、総務会議→役員会議で話し合い、最後に93名の実行委員会で承認を得て行事を行っていく。そこからまた地域に伸びていくということから、ふるさと協議会の役割は大きいと思う。 ・最初はふるさと協議会のことは分からなかったが、今はだいぶ分かってきて、一番大変なのは事務局なので、少しでもお手伝いができたらという気持ちからふるさと協議会に残りたいと思っている。
<p>いただいたご意見のまとめ</p>	<p>(地域の意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・南部は6つのキーワードにあまりあてはまらないと伺った。 ・南部ふるさと協議会は規約で構成員が決まっているので人手不足はないと伺った。 ・PTA役員を経てふるさと協議会で長く活動されている方が沢山いることを伺った。 ・子育て世代が地域や町会に参加しやすいように行事などを考えて交流を図り組織化するシステム作りが必要と伺った。 ・高齢化のため、運動会をレクリエーションにするなど時代に合わせ変えていくことも必須と伺った。 ・学校やPTAが地域と積極的に関わられるように行政も教育委員会との連携を図って欲しいという御意見をいただいた。 ・今まで以上の災害について地域と行政で考えていく必要があるとご意見をいただいた。 ・大谷会長のためなら働ける。お世話になった方への恩返しの気持ちがあれば参加したいと思えると伺った。 ・他の地域では学校との関係性が難しい中、南部ふるさと協議会は、学校やPTAとうまく連携が出来ていると伺った。 ・コミュニティスクールへの期待や学校との関係を築くシステムを作れたらいいと伺った。 ・これまでのやり方を時代に合った形に変えていきたいと伺った。 ・防災についての取り組みを強化したいと伺った。

(柏市職員の感想)

- ・南部ふるさと協議会は全体的に雰囲気が良いと感じた。
- ・人手不足に困っていないと思える環境はいいことだと思った。
- ・各団体の関係の良さをどこかの事例で発表して欲しいと感じた。